

## 令和5年度岩手県海岸漂着物対策推進協議会 議事録

(開催日時) 令和5年11月29日(水) 10時00分から11時40分まで

(開催場所) 岩手県庁 12階特別会議室(盛岡市内丸10番1号)

(出席構成員) 渋谷晃太郎構成員、内田尚宏構成員、後藤均構成員、熊谷敏裕構成員、畠山正構成員、菅原省司構成員、工藤貢構成員、吉田義行構成員、二本松史敏構成員  
(オンライン参加: 佐藤信昭構成員、藤田宏構成員、鈴木康代構成員、山田壮史構成員、南幅嘉人構成員)  
(欠席: 菊池透構成員、柿崎憲勝構成員、川原栄司構成員)

### 1 開会

<事務局から開会宣言>

### 2 挨拶

古澤資源循環推進課総括課長から挨拶

### 3 議事

(1) 令和4年度における海岸漂着物等のモニタリング調査結果について  
事務局から資料1に基づいて説明  
※構成員から特に意見なし

(2) 令和4年度及び令和5年度における県の海岸漂着物対策の取組状況について  
事務局から資料2～4に基づいて説明

○ **内田構成員(一般社団法人いわて流域ネットワーク)**

資料4に係る啓発活動実績について、五日市振興協議会(八幡平市)の活動実施場所である希望の丘はどこか。

○ **事務局**

市内の陸域の清掃活動を行ったもの。

○ **内田構成員(一般社団法人いわて流域ネットワーク)**

紫波も同様に行われている。

○ **渋谷座長(岩手県立大学)**

海岸での活動も多いが、内陸での活動も行われているところ。大変ありがたい。

(3) 今後の取組方針について  
事務局から資料5に基づいて説明

○ **吉田構成員(久慈市)**

情報提供になるが、久慈市で小学生を対象とした環境学習講座を行っている。もぐらんぴあ館長や県北広域振興局職員からお話をいただいているところ。

この講座は岩手県公衆衛生組合連合会から補助を受けているもの。「岩手の川、海、環境を守ろう。身近なプラスチックごみ減量運動」という項目で補助額は5万円程度。県の支援に参画できればよいが、団体育成を行うものではなく、難しいと感じる。

○ **事務局**

補助メニューには載らないが、各主体の連携、取組について承知した。引き続き協力願う。

○ **渋谷座長**

活動実績に乗せることは可能か。

○ **事務局**

資料3で示す県内の取組状況については、各市町村に照会をかけているもの。取組について、来年度以降の照会の際報告をいただければ、協議会の中で紹介する。

○ **渋谷座長**

幅広く考えていくということか。

○ **事務局**

そうである。

○ **渋谷座長**

資料5別紙1に係るシーカヤックの取組について、重茂中学校が参加した際に私も参加した。漁協にも協力をいただき、サポートを行っていただいた。こういった取組が普及していくといい。

内田構成員には川のほうで活動をいただいているところ。ごみの状況等はどうか。

○ **内田構成員**

水源地域での清掃活動も多く関わりは持っているが、直接のごみ量は把握していない。活動内容としては環境学習と普及啓発及びリバーレスキューの講習会等を行っているところ。内陸部での啓発活動を広めていきたいと考えている。

漂着物のごみを見ると、缶類等が多く大人が排出していることが伺える。小学校、中学校及び高校においては環境学習を行っており、海洋ごみに対する意識が非常に高い。今後は大人に対する意識づくりが必要だと感じる。また、引き続き子供の意識づくりも行っていきたい。

以前、市町村連携協議会において、岩手町から石巻市に市町村が連携し、上流域と下流域の交流、小学生の交流会を行っていた。また流域のつながりを体験する様な活動ができないかと考えているが、民間のみでは難しいところ。

○ **渋谷座長**

岩手県の川は他県へと流れていく。上流県として責任があると感じる。こういった交流は以前から行われていたのか。

○ **内田構成員**

震災前までは行われていた。震災後も奥州市で続けられていたが、コロナの影響により途絶えてしまっている。

○ **菅原構成員（特定非営利活動法人浄土ヶ浜ネイチャーガイド）**

ごみの問題は大きく、雲をつかむような話。モニタリングの資料から、ごみの種類を分析すると、漁業者のごみ、一般生活者のごみの大きく2つに分けられる。海流の問題から、これまでは北から来るごみが流れ着いていたが、今後は南から来るごみが増えていくかもしれない。

しかし、私が海の様子を見る限り、地元漁業者のごみが多いのではないかと感じる。かなりの分

量が排出されており、過失か故意かを含め分析していくべき。もう1つ多くみられた一般生活者のごみについては、風や台風で河川から流れてきたのではないかと考える。ポイントを決めて対策を練ればかなり力が入るのではないか。

また、専門的なアドバイザーが不足している。海洋ごみに関するアドバイザーの養成に力を入れるべきではないか。

力を入れる所、ごみの発生源をどう止めるかについて、調査研究をしていく必要がある。

#### ○ 事務局

これまでもモニタリング調査や組成調査は行ってきたところ。排出元がどこなのかといった分析はできていない部分である。原因を特定しポイントを絞った対策ができるように取組を検討していく。

#### ○ 後藤構成員（岩手県漁業協同組合連合会）

以前より漁業者の意識高揚がみられるが、依然として漁業系廃棄物が多いところ。啓発を行っていく必要があると感じる。重茂漁協の話があったが、重茂は比較的漁業者が多く、海洋ごみに関心が高い地域である。そのために海洋ごみに関する活動ができているが、そうではない地域もあり、さらなる啓発が必要である。

#### ○ 渋谷座長

海ごみの回収にあっては、漁業者の協力が必要である。引き続き協力願う。

来年度等に向け、現場での御意見、現状や課題について順に意見を願う。

#### ○ 熊谷構成員（岩手県商工会連合会）

海岸漂着物に特化しているものはないが、各地域の商工会として対応しているものもある。内陸部についても、河川に特化した取組は2か所把握しているところ。また、一般的な清掃活動についても取り組んでいる。個々の企業では、プラスチックごみリサイクルについて対応している店舗が増えてきている。

#### ○ 渋谷座長

日々の取組が海のごみを減らすことにつながる。今後も協力願う。

今年度からいわてプラごみ削減協力店の取組が行われている。参加可能店舗があれば紹介願う。

#### ○ 畠山構成員（全国農業協同組合連合会岩手県本部）

農協と市町村が主体で、農業廃プラスチックの適正な処理を引き続き行っていく。ほかに、肥料の被膜にマイクロプラスチックが含まれていることについて、生産者への周知している。プラスチックの使用減少を図る肥料の開発研究を行っているところ。

#### ○ 菅原構成員

先程、ごみの発生源について述べたが、ごみ拾いの仕方にも作戦が必要である。海にごみ流れないようにするには河川でごみ拾いをするというように、ごみを止める作戦が効果的である。

また、カヤックでごみの問題を解消する話が合ったが、これらの人はネットを見て集まるもの。市民、県民も海ごみについて関心がある。我々が目的を作ることが必要ではないか。

何年かすると、海流が北上し、南の海流とともにごみが流れ着くことが想像できる。各状況に対応した取組が必要になる。

#### ○ 工藤構成員（海上保安庁第二管区海上保安部釜石海上保安部警備救難課）

環境保全活動の一環として若年層を対象に普及啓発活動を行っているところ。地域ボランティアや学校とともに、海浜清掃活動や図画コンクールを行っている。

○ **吉田構成員**

先程の環境学習講座について補足する。講座は久慈市衛生班連合会が主催する。講演後にフィールドワークとして、もぐらんぴあ前の清掃活動を行い、海洋ごみに関する理解を深めている。今後は講座に加え、大人に対する啓発活動について考えていきたい。

○ **二本松構成員（釜石市）**

市でも関係団体の協力を得ながら、主に海ごみゼロウィークや海開き前に清掃活動を行っているところ。市の砂浜は、震災後の砂浜再生事業により再生したもの。漂着したビン、カン等や流木などの自然物が見受けられるが、比較的綺麗な状態である。

資料3に「かまいし環境ネットワーク」の活動が掲載されている。この活動では、入り江にあるごみの回収を行っており、今年度は250kgの回収量になった。入り江のごみは、震災で流れ着いたものではないかと思われられる。その中でも漁具がたくさんあった。資料5の令和6年度の県取組方針では「漁業者向け普及啓発の推進」が取り上げられており、まさに必要なものである。来年度この取組を行う際は、いつどのように行うかを各市町村に連絡をいただければ、連携して取り組めるのではないかと考える。

○ **南幅構成員（岩手県市町村清掃協議会）**

資料5の令和6年度の県取組方針で、「製品プラスチックの県内リサイクルの促進」があげられている。製品プラスチックのリサイクルを行う事業者がいないが、これらを進めていくことで漂着物等を減らすことができると考える。

○ **事務局**

プラスチック資源循環促進法が令和4年度に施行され、プラスチック製品全般のリサイクルが努力義務とされたところ。この取組を県内で行っていけば、海洋プラスチック対策にもつながるため、県としても取組の支援を行っていきたい。

○ **内田構成員**

海洋ごみについては発生源を作らないことが必要である。そのため、プラスチック代替製品に関する取組の動きについて伺いたい。行政が組織するこのような会では、ごみの発生源等根本的な対策について考えていくべき。

4 その他

○ **渋谷座長（岩手県立大学）**

それでは、予定している議事は以上だが、事務局から伺いたい。

○ **古澤資源循環推進課総括課長（事務局）**

各構成員からいろいろな意見をいただいたところ。発生源対策等考えさせられる意見、情報が多くあげられた。肥料の被膜にプラスチックが使用されていることについて、肥料使用後にプラスチックが残るのではないかと考える。このような発生源に対して、どこまで対策ができるのか検討していきたい。貴重な意見をいただき感謝申し上げる。

○ **渋谷座長**

一点お願いがある。学識経験者について、今後可能であれば東大海洋研の方に構成員をお願いできればと思う。検討願う。

○ **事務局**

来年度に向けて、事務局のほうから連絡を取る。

## 5 閉会

<事務局から閉会宣言>